

2020年11月20日第66回運輸政策セミナー
新型コロナウイルスによる観光への影響と今後の展望
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所の宿利正史です。

本日の運輸政策セミナーには、500名近くの多くの皆様方に参加のお申込みをいただきました。誠にありがとうございます。

前回は、10月26日に「新型コロナウイルスが鉄道輸送と都市構造に及ぼす影響に関するシンポジウム」を開催いたしましたところ、会場の参加者とオンラインの参加者を合わせまして約1,100名もの多くの皆様方にご参加いただきました。このテーマについて、皆様方が如何に高い関心を持っておられるかを実感いたしました。一方、オンライン配信による資料の映像が不鮮明であったということで、多くの皆様からその旨のご指摘をいただきました。心からお詫び申し上げます。当研究所といたしましては、今後このようなことがないように一層の改善・工夫を重ねていきたいと考えておりますので、皆様方には、今後とも忌憚のないご意見やご指摘をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

さて、本日は、観光をテーマに取り上げまして、「新型コロナウイルスによる観光への影響と今後の展望」と題しまして運輸政策セミナーを開催します。

観光産業は、運輸産業と並んで新型コロナウイルスによって最も大きな影響を受けた産業分野の1つであります。このところの欧米諸国や我が国における感染者数の増加を見ておきますと、残念ながら、なかなか展望を持ちづらく、今後なおしばらく不確実、不安定な状態が続くような気配でございます。

しかしながら、一方で、来たるべきポストコロナの時代を見据えて、観光業界の持続的な成長に向けた議論や取組みが進みつつあることも事実です。グローバルなレベルで言いますと、10月7日に開催されたG20観光大臣会合におきまして、危機的な状況にある観光産業の回復のため、各国間で、また官民が、連携して対応していくことの重要性が確認されるとともに、ポストコロナに向けて、「観光を通じた包摂的なコミュニティ開発」の重要性や、「安全かつシームレスな旅行」、つまり、安全・安心で、スムーズに、楽しい体験を提供することができる旅行を推進することの重要性などが提起され、関係国間で合意がなされています。今後これを、我が国に則した形でより具体的な行動計画に落とし込んで、実行に移していくことが求められていると思います。

私は、現在の厳しい状況下においてこそ、新型コロナウイルスが観光に与える影響や課題をよくよく見極め、そこから得られる教訓を漏れなく生かし、ポストコロナの時代に向けて、真に持続可能な観光産業となるための努力を積み重ねていく、これが最も重要であると思っています。当研究所といたしましては、このような問題意識をもって、今後継続的にこのテーマに取り組んでいく予定です。

本日はその第1弾として、PwC コンサルティング合同会社の澤田様とJTB 総合研究所の黒須様より、お二人のご専門の見地から、新型コロナウイルスが我が国のホテル業及びツーリズム産業に及ぼす影響と今後の展望についてご講演をいただきます。その後、当研究所の山内所長を交えて、パネルディスカッションと皆様方との質疑応答を行うことを通じまして、皆様方と共にこのテーマについて検討を深めてまいりたいと思います。

最後に、本日のセミナーにご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。

(以上)